

2018年度 立命館守山中学校・高等学校の教育活動について

教育の現状と課題

本校にとって2018年度は、これまでの教育の到達点を踏まえ、次の10年先を見据えた学校づくりに向かう新たなステージの第一歩を踏み出す年となりました。私たちはその観点から、育成すべき生徒像を「高い知性（知識・知恵・見識）と志で未来を切り拓き、世界に貢献する『グローバルサイエンスリーダー』」とし、学校目標として「確かな学力と主体的な学習姿勢の育成」「豊かな人間性や社会性（人間力）の育成」「グローバルとサイエンスの資質の育成」「教員としての資質と授業力の向上を目指す教員集団の育成」「地域や社会から信頼される学校づくり」の5つを柱に掲げました。

第一の「確かな学力と主体的な学習姿勢の育成」では、「授業」を学校教育の土台と位置づけ、「授業第一の校風づくり」の実現に向け取り組みました。生徒には、授業に向き合う態度、授業を受ける準備、宿題や予習などの家庭学習の定着、クラブや行事との両立などについて指導するとともに、ICT機器の積極的な活用を通して、生徒自らが考え、意見を述べ、周囲と協力しながら課題解決に向かうアクティブラーニングやPBL型授業へと学びのスタイルを大きく転換させる動きを進めることができました。

第二の「豊かな人間性や社会性の育成」では、「豊かな人間性や社会性」が自立した人間として力強く生きていくために不可欠な要素であると考え、「確かな学力」とともにバランスよく育成することに取り組んできました。ホームルームや学年での集団づくり、行事や課外活動のなかで生徒自身が企画し責任をもって運営する機会を設定するなど、自らの体験と達成感を積み重ねながら成長できるよう支援を行いました。また、「時を守り」「場を整え」「礼を尽くす」という3点の生活目標を設定し、基本的な生活習慣の確立と社会性や高い倫理観を育てる指導も進めてきました。しかし、マナーについては地域からお叱りを受けることもあり、保護者のみなさまとも連携しながら取り組むべき課題となっています。

第三の「グローバルとサイエンスの資質の育成」では、第3期スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受け、高度科学技術系人材の育成を目指す「中高大院における系統的科学探究プログラム」の動きが始動しました。今年度は新たに探究科目や教科横断型科目の講座を開講し、立命館大学理工系学部との高大接続モデルの開発についても共同プロジェクトが立ち上がりました。また、グローバル教育では高校グローバルコースの新設や海外研修の新規開発など、時代を先駆ける教育プログラムの改革を進めています。フロンティアサイエンスコース(FSC)は、次年度からフロンティアコース(FT)に発展改組することに先立ち、中高一貫した指導の連続性を持たせるなどカリキュラムの充実にも取り組みました。

第四の「教員としての資質と授業力の向上を目指す教員集団の育成」では、生徒たちが生き生きと学べるよう教員の授業力の向上が何よりも肝要と考え取り組んできました。教科や学年での研究授業や全校的な公開授業研究会を定期開催するとともに、広く学外研修会への参加も奨励し、教員の授業力向上を図ってきました。その結果、生徒授業評価の満足度が大きく上昇するなど成果が現れています。また、今年度、本校が主催した『ICT公開授業研究会』では、全国から約300名の参加者を集め、「全国有数のICT教育先進校」としての高い評価を受けることができました。

第五の「地域や社会から信頼される学校づくり」では、ホームページ画面を刷新し、家庭や地域に迅速かつ正確に学校情報を発信できるようになりました。クラブ活動や教科活動の成果など生徒の顕著な活躍を広く発信することで、保護者や卒業生、地域のみなさまとのつながりがより深まるなど成果が現れ

ています。また、生徒の安全・安心を確保する環境整備として、登下校監視システム「ミマモルメ」を導入、災害時の生徒掌握にも効果を発揮できるものと期待されています。

2019年度入試は、この間の教学、広報宣伝、入試システムの諸改革が広く理解、支持されたことにより、中高ともに志願者数が昨年度を大きく上回る好結果につながりました。

以上の到達点を踏まえ、本校は現在、2030年を見据えた教育将来構想計画「R-Moriyama Vision 2030」を策定し、新たな教育改革に学園の全面的支援を得ながら取り組んでいます。これは、本校が掲げる「グローバルサイエンスリーダーの育成」の更なる高度化の実現、学びの質的転換につながる「サイエンス」「グローバル」「主体的・創造的な学び」の3つの要素を統合した「学びの立命館守山モデル」の構築を目標としています。これに伴い、教育カリキュラムの改編、教員定数の増加、教室の情報基盤改修、サイテックラボの第2体育館化、食堂のラーニングコモンズ化、机・椅子の交換、エアコン設備の改修など、教育環境の整備を同時進行で実現を図ります。